

英語教師の授業はどのように変わってゆくか  
—授業研究を教員養成、教師の研修に生かすことを視野に入れて—

太田 洋

A Developmental Analysis of Two English Classes

Hiroshi OTA

ABSTRACT

The purpose of this study is to examine the development of a junior high school teacher's English classes in the teacher's approach to each class. Two English classes conducted in 2005 and 2006 were videotaped to compare the differences. Also, an interview with the teacher was conducted in order to investigate his teaching methods and philosophy. The results of the study suggest the following differences ; 1) the variations in a single activity 2) the relationship between and among activities 3) the increases in pair work 4) various increases in feedback to students.

1. はじめに

「教師の授業はどのように変わって行くのだろうか？伸びてゆくのだろうか？」「そこで得られたことを教員養成や現職教員研修に生かすことはできないであろうか？」—以上のことが今回の研究の動機である。授業研究は盛んに行われ、ビデオを見て授業についてディスカッションを行うことが増えてきた。1つ授業を見て、実際に行われたことから研究することはとても大切である。しかし同時に同じ授業者の複数の授業を比較することで得られることもあるのではないだろうか。

本研究では、一人の教師の授業の変化を客観的にとらえ、その変化の原因を明らかにし、教師の授業がどのように伸びてゆくかを検討していきたい。またそこから得られたことをどのように研修に生かすことができるかを考えていき

たい。

2. 先行研究

一人の教師の授業を分析したものに松井・今井（2007）がある。教師歴26年の熟練教師の授業を7ヶ月間の授業観察とインタビューから教師の思考を分析した。その結果、この教師は、学習者の3年間の中学校生活を見越して授業を行うという長期的な視点に立っていること、授業の特徴として、種類も生徒の参加形態もバリエーションに富んでいることがわかった。

太田（2006）では自分自身の授業をどのように行ってきたかを振り返り、変化として次の3点をあげている。

- ・長期的な視点を持つようになった。
- ・生徒は何を学んでできるかを考えるようになった。

・目的を持って活動を行うようになった。

### 3. 方法

#### 3.1. 被験者

神奈川県公立中学校英語教師。2006年授業ビデオ録画時は6年目であった。大学では中学校英語教師の経験を持つ教員から英語教科教育法の授業を受講し、マイクロティーチングなど、実践的な指導を受けた。大学卒業後、神奈川県公立中学校に勤務。授業ビデオ録画時の勤務校が1校目である。

#### 3.2. 材料

被験者が行った授業を録画したビデオ2本。1本は2005年11月に行われた中学校3年生への授業。この学年は授業者が1年次から担当し、担任をしているクラスである。もう一本は2006年12月に行われた中学校3年生への授業。この学年は授業者が中学校3年生から担当したクラスである。

#### 3.3. 分析方法

2005、2006の授業録画ビデオを用いて、次の順序で分析を行う。

- 1) 授業展開がわかるように、それぞれの授業を teaching plan の形にする。
- 2) 松井・今井 (2007) の行為分類をもとに、本研究用に5つの項目(「全体の活動」「個人の活動」「ペア・グループの活動」「教師のアドバイス・コメント」「活動の指示・説明」)を設定し、授業者の授業中の行為を分類する。
- 3) 1)、2) それぞれの表を2005と2006を比べ、違いを明らかにする。
- 4) 2005、2006の授業録画ビデオを授業者と共に見て、活動の意図、2005、2006の変化について、授業者の意見を求める。

### 4. 結果と考察

#### 4.1. Teaching plan

2005年の授業は次の通りである。

Time	Procedure	Teacher's activities	Students' activities
1分 2分47秒	Greeting Warm up	①あいさつを行う ①マザーグースを歌わせる	あいさつを行う マザーグースを歌う
4分8秒	Review	③90秒クイズを行う	生徒は2人一組になり、以前に習った教科書の文が書いてあるプリントを使い、一人が日本語(または英語)を言い、もう一人がそれにあたる英語(または日本語)を言う
3分49秒	教科書内容理解	① picture card を見せ、質問しながら教科書の内容を復習する	先生の質問に答える。(当てられて答えるのではなく、わかる人が次々に言う)
3分34秒		① new words をリピートさせる	リピートする
3分35秒		②教科書内容読み取り(穴埋め)	教科書を読みながら日本語を埋めていく
		① Check the answers	列で当てられる
		②関係代名詞の that を本文から探させる	教科書を読みながら関係代名詞を探す

		<ul style="list-style-type: none"> <li>④生徒をモニターし、アドバイスを する。個々の答えを check する</li> <li>① クラス全体で答えを合 わせる</li> <li>①日本語で内容を説明する</li> </ul>	<p>終わった人は手をあげ、先生に みてもらう</p> <p>説明を聞き、ポイントをノート に書く。</p>
12分15秒	音読練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>①チャンクごとに区切ってリピ ートさせる</li> <li>①1文ごとにリピートさせる</li> <li>②30秒リーディングをさせる</li> <li>②2分間個人読み練習をさせる</li> <li>④生徒をモニターし、アドバイ スをする。生徒が読みにくい 語句を板書する</li> <li>①板書したことをもとに、発音 のしかたを説明・練習させる</li> <li>③30秒 reading (2回目)</li> <li>④生徒をモニターし、アドバイ スをする</li> <li>① Read &amp; Look-up を行う</li> <li>④生徒の様子で適宜アドバイ スをする</li> </ul>	<p>先生の後についてリピートする</p> <p>2人一組になり、1人が30秒で できるだけたくさん読む。もう 一人は聞いている。</p> <p>各自2分間でできるだけ多く読 む</p> <p>説明を聞き、あわせてリピート する</p>
13分55秒	<p>Presentation of a new structure</p> <p>Practice of the target structure</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①絵を見せながら、target structure (so... that/too... to)を導入した後、リピートさ せる</li> <li>①意味を確認し、意味と文法の ポイントを板書する</li> <li>⑤終わった生徒から次にやるプ リントを配布。例文を読んで おくよう指示する</li> <li>①意味を日本語で確認し、文の パターンを説明。target の文 をリピートさせながら意味と 形を説明</li> <li>①プリントの例文をリピートさ せながら、意味を確認する</li> </ul>	<p>先生の英語を聞く</p> <p>ノートに書く</p> <p>ノートに書き終えた生徒はプ リントを黙読している</p> <p>説明を聞いている</p> <p>プリントの例文をリピートする</p>
	まとめ	宿題の提示	

2006年の授業

Time	Procedure	Teacher's activities	Students' activities
1分 8分34秒	Greeting Warm up	<p>①あいさつを行う</p> <p>①単語60秒クイズを行う 全体で単語を練習させる</p> <p>③60秒クイズをペアで行わせる</p> <p>⑤クイズショーの活動の指示をする</p> <p>② Thinking time (15秒) を与える</p> <p>④文の作り方をアドバイスする</p> <p>③ペアでクイズショーを行わせる</p> <p>①どんな文を作ったか生徒に聞き、それをリピート 「個人で考えさせる→ペアでクイズショーをさせる→どんなクイズを作ったかを聞く」をもう一度繰り返す</p>	<p>あいさつを行う 単語をリピートする</p> <p>生徒は2人一組になり、プリントを使い、一人が日本語(または英語)を言い、もう一人がそれにあたる英語(または日本語)を言う</p> <p>各自、60秒クイズで練習した単語が答えになるように、It is something that..を使って、クイズを考える</p> <p>生徒は2人一組になり、一人がクイズを出し、もう一人が答える</p>
3分33秒		<p>①マザーグースを歌わせる(先生の後について→BGMにあわせて)</p> <p>②個人で練習させる</p> <p>④うまく歌えない生徒にアドバイスをする</p> <p>① BGMにあわせてもう一度歌わせる</p>	<p>マザーグースを歌う</p> <p>個人で練習する</p>
10分30秒	復習 教科書内容確認	<p>① picture card を見せ、質問しながら教科書の内容を復習する</p> <p>⑤聞き方を指示(「発音に気をつけながら聞いて、つながっているところはどこ?」し、CDを聞かせる</p>	<p>先生の質問に答える。(当てられるのではなくわかる人が次々に言う)</p> <p>CDを聞く</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>①本文をリピートさせる</li> <li>①同時通訳をさせる</li> <li>⑤やり方を説明した後、1人の生徒とモデルを示す</li> <li>②ペアで活動させる</li> <li>④生徒をモニターし、アドバイスをする</li> </ul>	<p>リピートする</p> <p>生徒は2人一組になり、一人はプリントの日本語（チャンクごとになっている）を言い、もう一人は日本語にあたる英語を同時通訳のようにさっと言う</p>
8分15秒	教科書の読み取り 1（内容理解）	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤リーディングタスクのプリントを配布し、活動の説明をする</li> <li>①ジェスチャーをしたり例を出しながら単語の意味を出す</li> <li>②リーディングタスクを与え、読ませる</li> <li>④生徒に適宜アドバイスを与える</li> <li>①答えあわせをする</li> </ul>	<p>説明を聞いている</p> <p>先生のジェスチャーやヒントから、単語の意味を言う 教科書を読みながら、プリントに書かれた質問に答えていく 列で当てられ答えていく</p>
9分22秒	教科書の読み取り 2（文法・音声理解）	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新出単語の意味を確認し、リピートさせる</li> <li>⑤②③マジック e ('?a?e) 'を3つ探させる（最初は個人で、次にペアで）</li> <li>②CDを流し、that が省略されているところ2箇所探させる</li> <li>④「名詞を後ろから主語＋動詞で説明しているよ。」など適宜アドバイスを与える</li> <li>①答えを合わせる。文法のポイント、新出単語の説明をする</li> </ul>	<p>先生の英語を聞き、リピートする</p> <p>3つ見つけたら座る 隣と相談したり、教科書を見て探す that が省略されている箇所を探す</p> <p>教科書に線を引いたりポイントを記入していく</p>
9分48秒	音読練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>①チャンクごとに区切ってリピートさせる</li> <li>①1文ごとにリピートさせる</li> <li>②30秒リーディングをさせる</li> <li>③2分間個人読み練習をさせる</li> <li>④モニターし、アドバイスをする。生徒が読みにくい語句を板書する</li> <li>①板書したことをもとに、発音のしかたを説明・練習させる</li> </ul>	<p>先生の後についてリピートする</p> <p>2人一組になり、1人が30秒でできるだけたくさん読む。もう一人は聞いている 各自2分間でできるだけ多く読む</p>

	②30秒 reading (2回目) 生徒をモニターし、アドバイスを ① Read & Look-up を行う ④生徒の様子で適宜アドバイスを する	説明を聞き、あわせてリピートする。
--	--	-------------------

\* ①～⑤は次の活動の種類を表す：①「全体の活動」②「個人の活動」③「ペア・グループの活動」④「教師のアドバイス・コメント」⑤「活動の指示・説明」

#### 4.2. 授業者の授業中の行為分類

松井・今井 (2007) の行為分類をもとに、本研究用に5つの項目(「全体の活動」「個人の活動」「ペア・グループの活動」「教師のアドバイス・コメント」「活動の指示・説明」)を設定し、授業者の授業中の行為を分類した。2005年、2006年の授業はそれぞれ以下の表ようになる。

##### 4.3. 2005と2006の違い

###### 4.3.1 Teaching plan を比較

Teaching plan を比較して見えてきたものは以下の2つである。

- ・1つの活動内でのバリエーションの違い
- ・活動と活動をつなぐ意識

次の表は2005、2006で共通して行われた同じ種類の活動を比較したものである。

Reading を除く2つの活動で、活動内のバリエーションが増えている。たとえば chants は2005年では、「先生の後について→BGMに合わせて」だけだったが、2006年では「先生の後について→BGMに合わせて」の後、「個人練習→全員で」とバリエーションを増やしている。さらに個人練習の間に、教師はアドバイスを行っ

活動のバリエーションの違い

	2005	2006
Chants	2	4
90(60)秒クイズ	1	2
Reading	6	6

ている。授業者は「バリエーションを増やす意識をした」と述べている。

活動と活動をつなぐ意識に関しては、「warm-up の60秒クイズ」から「クイズショー」へのつながりがあげられる。2005年は「マザーグースを歌う」という warm-up から教科書の文を復習する「90秒クイズ」となっていたが、2006年は、次のクイズショーで使う単語を「60秒クイズ」で復習してから、「クイズショー」となっていた。授業者は、「一つの活動が次の活動へつながるようにしたい。」とつながりを考え始めたことを述べている。もちろん「授業によってやりやすいかどうかによる。」とすべての活動をつなげることの難しさも語っている。

###### 4.3.2. 行為表からの違い

行為表を比較すると、次のような違いが明らかになる。

まずペア・グループの活動が3倍近く増えているのがわかる。2006年の授業では、Chants、reading 以外はペアで活動する時間があった。たとえば、magic e さがし、関係代名詞 that の省略されている部分を個人で活動させた後、ペアで活動するなど、いろいろな場面を利用していた。また Buzz reading の前など、生徒に考えさせる時間をとることが増えこともペアでの時間が増えた要因である。授業者はインタビューで、「2006でペアをうまく機能させようという意識を持ち始めた。」と語っている。この気持ちがペアでの活動を増やした要因の一つと思われる。

1G	2 Warm up chants repeat music (2'47")	3.Review 90秒クイズ (4'08")	Picture Describing NW (3'16")	穴埋め (3'34")	関係代名詞を探す (3'35")														
10時 分	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57

1. 全体の活動
2. 個人の活動
3. ペア・グループの活動
4. 先生のアドバイス・コメント
5. 活動の指示・説明

4.Presentation of a new structure																		
Presentation																		
Reading																		
repeat(短 repeat(長 30秒 Buzz reading 説明&repeat 30秒 Read&Look up (13'00") (11'15")																		
58	59	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16

1. 全体の活動
2. 個人の活動
3. ペア・グループの活動
4. 先生のアドバイス・コメント
5. 活動の指示・説明

5.Practice 6.C																
説明 & repeat rhythm (2'10")																
17	18	19	20	21	22	23	24	25	26							

1. 全体の活動
2. 個人の活動
3. ペア・グループの活動
4. 先生のアドバイス・コメント
5. 活動の指示・説明

1.G. 2.Warm up 60秒クイズ		クイズショー										3.Review									
		Chants										Textbook									
		repeat music  個練 m										PD  listening, repeat, 活動説明									
		(8'34")										(10'30")									
13時 分		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
1. 全体の活動																					
2. 個人の活動																					
3. ペア・グループの活動																					
4. 先生のアドバイス・コメント																					
5. 活動の指示・説明																					

1. 全体の活動
2. 個人の活動
3. ペア・グループの活動
4. 先生のアドバイス・コメント
5. 活動の指示・説明

4.Presentation of a text		NewWords Reading activity										S 単語 rep									
同時通訳		(8'15")										(5'37")									
		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	
1. 全体の活動																					
2. 個人の活動																					
3. ペア・グループの活動																					
4. 先生のアドバイス・コメント																					
5. 活動の指示・説明																					

1. 全体の活動
2. 個人の活動
3. ペア・グループの活動
4. 先生のアドバイス・コメント
5. 活動の指示・説明

5. Reading		Buzz 説明&repeat 30秒										CD									
CD listening explanation repeat(2回)		(9'08")										(3'45")									
		40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52							
1. 全体の活動																					
2. 個人の活動																					
3. ペア・グループの活動																					
4. 先生のアドバイス・コメント																					
5. 活動の指示・説明																					

1. 全体の活動
2. 個人の活動
3. ペア・グループの活動
4. 先生のアドバイス・コメント
5. 活動の指示・説明



### 授業の行為の違い

2005		2006
26'40"	全体	27'40"
15'44"	個人	8'10"
6'18"	ペア・グループ	13'10"
10'10"	アドバイス・コメント	12'20"
6'38"	指示・説明	14'00"

また授業者は、ペア活動の意義を「生徒に考えさせることで、生徒がどのくらいわかっているかがわかる。短い時間であったとしても授業が活性化する。それがないと生徒たちは受身になってしまう。」と述べている。

このような変化はどうしてなのかをたずねたところ、「以前は教師が全部教えてしまったが、余裕がでてきてできるようになってきたかもしれない。」と答えている。

もう一つの変化は、アドバイス・コメントが約3倍に増えたことである。この点に関して授業者は次のように理由を述べている。「一方的に教えるだけでなく、考えさせたい。考えさせた後、アドバイスをする。それまでは teaching plan どおりやるので精一杯であった。余裕が出てきた。生徒の動きが見えるようになった。」

なお全体の活動、個人の活動の増減の理由は次の通りである。全体が2006年で増えたのは、同時通訳での説明が1分40秒かかったことによることである。個人の活動が2005で多いのは、新出事項をノートに写す作業に6分かかっていることによるものである。

### 5. おわりに

授業者の変化は次の4点である。

- ・1つの活動内でのバリエーションの違い
- ・活動と活動をつなぐ意識
- ・ペア・グループの活動の増加

### ・アドバイス・コメントの増加

このような変化を具体的に授業の場面と授業者の声と共に示すことで、教員研修、教員養成に生かすことが大切であると思われる。Richards (1998) はその必要性を次のように述べている。

... the analysis of teaching as an activity that is grounded in the teacher's belief systems and cognitive world offers several important implications for the practice of second language teacher education, ...

今回の case study は1年間の変化であり、また途中段階である。今後この授業者の授業を追い、変化を記録していきたい。

### 参考文献

- 太田 洋, (2006). 「英語教員の授業力とは何か」 『筑波英語教育第27号』 筑波英語教育学会. pp. 137-139.
- 松井かおり・今井裕之, (2007). 「中学校英語授業における熟練教師の思考と実践の展開過程」. *Language Education & Technology*, 第44号 pp. 135-154.
- Richards, J. (1998). *Beyond Training*. Cambridge : Cambridge University Press.